

五年間のバンコック（90・6・21 東京分館）

錦織 俊郎（昭24一修理）

五年足らずの間タイのバンコックで生活致しましたので感じましたことをお話させていただきます。「タイ王国概観」の一部（別表参照）をコピーしてお配りしましたので、先ずこれを説明申し上げます、次に合弁事業運営に関わる話、最後に日常生活で思い出の深かったこととお話申し上げます。

タイは皆様よく御存知のとおり、インドシナ半島の中央部に位置し、まわりをラオス、カンボジア、マレーシア、ミャンマーに囲まれております。面積は日本のおよそ一・四倍で、人口は約半分です。人口は首都バンコックに六〇〇万人位集中しており全人口の約一〇％に相当します。この点は日本と似ているのですが、大阪や名古屋といった首都以外の大都会はありません。職を求めてバンコックに多くの人が流れ込んで来ますので都市人口過密で、電車や地下鉄がないため自動車は毎日超渋滞で、東京以上に移動は不便です。

気候は、熱帯モンsoon型で稲作に適しており、パサパサしたインデイカ米が栽培されます。日本人家庭ではこの米にもち米を加えて日本米に似せたご飯を炊いておられる様です。最近ではスーパ―にタイ産の「こしひかり」が並べられております。五月から十一月初めまでが雨季で、殆ど毎日降ります。朝や夕方に集中して降ることもあり、一日中豪雨のこともあり、又しとしとと降ることもあります。雨が上がりやすぐカラッと晴れて暑くなります。雨季が十一月に終わりますと、四月までは乾季となりこの間は一、二日を除いて雨は降りません。そのため観光シーズンとして好適です。十二月と一月は午前中は日本の早春の様な気配を感じることもあり嬉しくなります。二月の終り頃から四月に至る間は真夏です。四十度になるのもまれでなく、四月には「ソングラン」というお祭りが行われます。これは通行人に水をかけたり、お互いに誰でも水をかけ合っつてぶぬれになって楽しめます。水の有難さ、を皆で感謝し合うならわしなのででしょうか。タイ進出最古参の味の素の工場があるプラパデンは、このソングランが大規模に行われることで有名です。私も参加して頭から、又首から背中へ、又ま正面から、誰からとなくかけられました。道ばたにはポリ袋一バツ（当時約五円）の水が売られており、私も何個か買ってすれ違ふ人にかけて楽しみました。奇観です。

十一月には「ロイカトン」という灯ろう流しのお祭りが行われます。川やプールに多くの善男善女が集り、ローソクに火をともして流します。先祖供養というより男女の愛が実ることを祈る

(別表) タイ王国概観 (1989年)

1. 国土	位置	北緯5—21度, 東経97—106度 (インドシナ半島の中央部に位置し, カンボジア, ラオス, ビルマ, マレーシアの4国と国境を接する。)
	面積	51万3000km ² バンコク首都圏面積 1,565.2km ²
2. 人口	5,496万人 (1988年12月31日), 増加率 2.0%, 人口密度 107人/km ²	
3. 首都	バンコク (人口 572万人 同上), 人口増加率 2.0%	
4. 気候	熱帯モンスーン気候 バンコクの気候 雨季 6~10月頃, 乾季 11~5月頃, 最高気温 40度, 最低気温 15度, 年平均湿度 76.3%, 年間雨量 2,129mm	
5. 民族・言語	タイ族が約8割。他民族は華人系 (全体の1割, うち潮州系が6割) を筆頭にマレー人 (南部), カンボジア人, インド人, ベトナム人及び山岳民族等 公用語 タイ語 なお, ラオス語もタイ語に似ている。	
6. 宗教	憲法で宗教の自由を保障。国民の約95%は仏教徒 (南方上座部仏教, 仏僧 約30万人, 仏教寺院 約3万4000), 以下回教徒 約4%, キリスト教徒 約0.6%	
7. 教育	義務教育 6年 (初等), 1978年から 6—3—3—4制 就学率 初等 (7—12才) 95.8%, 中学 (13—15才) 34.5%, 高校 (16—18才) 24.7%, 大学等 (19—24才) 7.7% (1986年現在)。1988年ユネスコ推計の識字率 91%	

8. 保健医療	病院数 891, 医師数 9,464人, 10万人当たり18人。 平均寿命は男 61.75才, 女 67.5才 (日本は 75.23才, 80.93才)
9. 政体	立憲君主制 (1932年憲法公布)
10. 王室	チャクリ (ラタナコシン) 王朝 1782年チャクリ將軍 (ラー1世) が創設 現国王 プーミポン・アデウヤテート陛下 (チャクリ王朝9世, ラー9世, 1946年6月10日即位, 1927年12月5日生, 87年に還暦を盛大に祝賀)。シリキット王妃との間にウボンラツタナー王妃, ワチラロンコーン皇太子, シリントーン王妃, チュラポーソーン王妃の一男三女がある。 国王は, 神聖不可侵の元首であり, 国軍を統率するほか, 仏教の信奉者である旨, 憲法で規定されている。88年7月4日在位最長位を記録。
11. 国会	二院制, 上院は任命制 (267人, 6年任期, 2年ごとに半数改選, 下院は, 選挙制 (357人, 4年任期)。必ず政党に所属する義務がある (但し, 首相は除く)。与党が下院全議席の3分の2を占める。法案は下院に提出, 三読会制度。選挙は全国73県142選挙区。
12. 内閣	首相 チャチャイ・チュナハーン (タイ国民党党首), (1922年4月5日生, 67才), 1988年8月4日就任。8月9日組閣でタイ国民党87議席, 社会行動党54議席, 民主党48議席, 民衆党21議席, 連合民主党5議席, 大衆党5議席 (計220議席) の保守6党から成る連立政権。 * 80年からプレミアム内閣 (第5次), 88年4月29日国会解散, 7月24日総選挙実施。

13. 外 交	首相は「インドシナ半島を戦場から貿易の場に」を提唱し、カンボジアからのベトナム撤兵も間近。反ベトナム三派連合（民主カンボジア連合政府）支持。自由主義国との協調。ASEAN, 中国との友好関係を強化。
14. 軍 事	反政府ゲリラを主対象にした軍備から近代的装備を有する外国軍に対抗する軍備への移行を急いでいる。総兵力 25万6000人うち陸軍 16万人（4軍管区, 7個歩兵師団ほか）、海軍 4万2000人、空軍 4万8000人。義務兵役制で18～30歳の男子は原則2年間の兵役に服する義務がある。
15. 対日関係	両国は600年以上の通商関係を有す。87年9月26日、日タイ修好宣言100周年 対日赤字が12億ドル→24億ドル（88年）に急増。投資急増（1994年→389件） ----- 日本のODAはタイのODA総額の66.7%（86年, 二国間）。 主要無償援助：青少年福祉センター, タワサート大日本研究センター, 社会教育文化センター, 排水・洪水予防事業, 累計 1,208億円。技術協力200名超。 主要円借款事業：大半の発電所, 首都圏橋梁, 通信設備, 首都高速道路, 東部臨海開発等, 第1次→14次円借款累計 7,518.57億円（含輸銀328億, 交換公文）

(付) 日本との比較 (1988年)

主な項目	日本①	タイ②	②÷①
1. 国土面積 (km ²) うち農地面積 首都圏面積	377,781 53,635 2,166	513,115 199,088 1,565	1.36 3.71 0.72
2. 人口 (1000人) うち首都圏内 人口密度 (人/km ²) うち首都圏内	122,783 11,890 325 5,489	54,961 5,717 107 3,653	0.45 0.48 0.33 0.67
3. 国民総生産 (100万ドル) 1人当り国民総生産 (ドル)	2,863,300 23,358	57,888 1,043	0.02 0.04
4. 輸出額 (100万ドル) 輸入額 (100万ドル)	264,917 187,354	15,873 19,444	0.06 0.10
5. 米10kg, 円 (1バースツ=5.2円)	5,000	500	0.10
6. 初任給 (円)	120,000	15,600	0.13

意味だそうですが、真つ暗な川面に数え切れない灯ろうの舟がローソクの火に揺れる様は、幻想的というより表し様がありません。すさまじい暑さもこんな行事でなくさめるのですが在宅時には30度を切りますと肌寒く感じます。30度を少しでも上りますと暑くてかなわぬ、という感じになります。人間の感覚とは不思議なものと思います。

雨は快適なものではありませんが、タイの暑さを経験してからは雨も又楽し、という心境です。体験が価値観を変えました。

タイに住む民族は、大半がタイ族です。元々土着の人々ですが中国雲南省から長年の間に南下して混血し、タイ族が形成されたという説を聞いたこともあります。タイ人は人なつこくて親切です。男性は仕事よりも生活エンジョイ型、女性が労働型で、従って社会に占める女性の地位は日本より遙かに高いといえるでしょう。皆様が土産物店へ行かれると大てい奥さんや女性店員が商売に懸命ですが、カウンターから奥の方や下の方をのぞくと旦那がごろりと寝ている姿によくお目にかゝります。タイ人口の一割位が華僑です。比較的最近中国本土から来た人々ですが今、タイの経済を牛耳っているのは二代目でこれから三代目が力をつけてくるところです。潮州系が多い様に思いますが、ビジネスや語学の才に富み勤勉さに於いても日本人に決してひけをとれません。極めて優秀でとりわけ人を見抜く目と交渉術については神業の様なものを持つ人が多いです。こういう人々と同じ土俵で協力したり、たゝかったりする為には大局観を持つことと、我方

に都合の良い結論とすじ道をしっかり用意しておくことが必須とされています。これらの人々は殆どタイ国籍を持ち、政治・経済の要となっています。軍隊はタイ族が中心です。

インドシナ半島に存在しておりますのでインド人、ラオス人等各民族との混血も多く、そのせいか美人も数多く見られます。タイ人の多くは仏教を信じておりますが、日本と違い小乗仏教でありまして自分中心の幸福追求観が強く、来世のしあわせを願って食う物も食わずにお寺に寄進致します。又男子は短期間の僧となり、お寺で修行のため長期休暇をとることが会社でも官庁でも認められています。これにより一族や社会の中での評価が上がり尊敬を受けることができます。寺は美しくかざられ目を見張る壮大さで、この華麗さと日常生活の質素さはどの様に関連づけて考えたらよいのでしょうか。多民族国家タイを支えるものはこの仏教と王制です。

現在はラタナコシン王朝の御代です。タイ最初の王朝はスコタイ王朝で、今から七五〇年前にラムカムヘン王によってバンコックの北五〇〇kmのスコタイに創立されました。スコタイ遺跡は公園として整備されておりますが、その風景はどこか奈良や飛鳥を想わせるものがあり、日本人には一種の感動を与えます。次がアユタヤ王朝で、この時代にビルマから侵略を受け寺院や仏像は破壊されつくされました。この遺跡も又修復されて観光名所となっておりますが、ここではすさまじい戦の跡を見ることができません。この時代に活躍した山田長政の住んだ日本人村は、遺跡の近くにありますが、当時の面影は全くなく、金を求めて寄って来る子供の姿があるだけでした。

(今は日・タイ修好記念の文化館が建てられた由。)アユタヤ王朝の次はトンブリ王朝で、その次が現在のラタナコシン王朝となります。この王朝で特記すべきは我が明治天皇と同時代に王位にあられたチュラロンコン王の偉業です。経済はもとより教育や外交に力を入れられ今なおタイ国民尊敬の的となっております。それ以来日本の発展は急かつ大で今や実質世界一の経済平和国家を築きあげたのですが、タイは今が離陸期で来世紀初頭にはアセアン地域の指導国家の地位を占めていることでしょう。

歩みは遅々としておりますが、常に将来に希望を持って意気盛なタイが羨しく感じられる時もあります。現在のプミポン王やシリントン王女はよく国をまわられて慈善事業や産業援助を行われ、地方の民との接触を心がけておられます。これが国民を一つにまとめる大きな力になっているのは疑のないことです。個人主義が強いタイ人を国家意識の下に結集するため種々なことが行われておりますが、目につくこととしては朝の八時と夕方の六時には、市内の特定場所や建物・ホテル等で国歌が流れ、歩行者は皆立ち止って敬意を表します。学校では八時に全員が国旗掲揚台の前に集合して男女の代表が旗を掲揚しております。これを見る度に私は感動をおぼえました。次に話を変えまして合併事業の運営に関連して印象の深かったことを申し述べさせて頂きたいと存じます。

一九八五年九月にニューヨークのプラザホテルで五ヶ国蔵相会議が開催され、アメリカのドル

高を是正して国際収支を改善するために、日本円の高目誘導が合意されました。いわゆるプラザ合意です。これが決定されるや否や円は予想外のスピードで高騰を続け、このため、中小企業は東南アジアその他、向の輸出が大変困難となりました。この根本的対策として工場自体をタイ、マレーシア等に移転する会社が続出する情勢となりました。中小企業にとゞまらず電機や機械、エレクトロニクス関係の大企業もコストの低い部品を日本に供給したり、完成品自体をタイから日本及び世界各国に輸出するために、生産をタイ等に移転することを決断したのです。この為、当時は「空洞化」という言葉が新聞をにぎわせました。日本国内に技術自体が無くなってしまふという意味でした。

この生産移転は、現地資本と合併会社を設立する形で行われましたので、プラザ合意以降、数多くの日・タイ合併会社が設立されました。これがタイの経済近代化の大きい節目となった次第です。これらの合併会社は種々の恩典を政府から得る為進出を政府に申請します。そして正式認可がおりてから着工を始めます。こうして一九八六年から進出の申請が大々的に開始され、その後工場建設が始まったのですが、大々的な工場完成は一九八八年からあります。つまり八八年から一年の間に一五〇社位の日本のメーカーがタイに工場を建設したということであり、これが三年間続いております。一九九一年以降はその数は減少するでしょう。進出国は日本だけでなく台湾、香港、独逸等もあります。日本の進出企業の数に全体の約六割でありまして、全体

で一千社位の会社（工場）が三乃至四年間にバンコック周辺に建設されることとなったのです。今がまさに集中豪雨的な工業化の時期であるのです。政府は受入れ策として民間と共同で各地に工業団地を造成しこゝに日系工場も建設されております。これに応じて一年前は見渡す限りの田畑や原野であったところが、あつという間に住宅が建ち並び日本人向のカラオケバーや立派なデパートが、建つという具合で活力あふれる経済の姿におどろかされました。

私どもの三〇才台は日本の再勃興期と高度成長期にあたり貴重な体験をさして頂いたのですが、タイの高度成長の姿は日本を上まわるバイタリテイを持つ様に感じます。その時点までの基盤が違うのですからその様に見えるのでしょうか、それにしてもすさまじい工業化であります。タイ政府は日本と違って可成強権発動的なところがありますから、インフレ等の手の打ち方も早いので大きい問題なしに発展を続けるでしょう。私の合弁会社「タイ川研（株）」は、タイ経済がこの様な活況を呈する少し前にタイ進出を決定し稼働を始めました。つまり進出の動機は円高ではなく原料ヒマシ油を安価にかつ安定した価格で入手する為でありました。私共は油脂化学の会社でヤシ油やヒマシ油を大量に輸入して界面活性剤等を製造して主に国内で販売しておりました。当時の売上高は百億円少々で従業員は二百四十名位の中小企業です。

ヒマシ油を原料とする製品は全売上の一〇％でしたが、収益力は全くなく赤字製品でかつ相場商品でありましたので、会社は折あらば生産をやめたいと考えておりました。原料ヒマシ油はタ

イから輸入しておりました。ヒマシ油は戦前下剤としてよく用いられたので皆様にもなじみ深いものと存じます。このヒマシはインド・中国・ブラジルで大々的に栽培されておりましてこの三国で世界の全生産量百万トンの大半を占めております。タイの生産量はわずか2万トンで微々たるものですが、品質がよいので商社経由で購入しております。会社が日本での生産をやめてタイに移すことを決めましたのは、油のコストを下げる為です。油として輸入しますと当時に九・二％の関税がか、りましたが、製品として輸入しますと関税はか、りません。又油は国際相場が立ちまして年内に倍位の上下をすることもまれではない位価格変動の激しい商品です。これを油の生産地で購入すれば若干でもこの変動を減らすことができるのではないかと考えました。タイのパートナーはこのヒマシ油のメーカーで、以前から油を加工して付加価値を高めた希望を持っていましたので、双方の意見が合致致しました。合弁会社の出資比率は日本側四九％、タイ側五一％と決められました。この比率は私にとって痛恨の極みともいふべき決定でありました。この合弁事業はタイの農産物を主原料とし、製品のほゞ一〇〇％が輸出され、その大半が日本で販売される、しかも技術はすべて日本から輸出されるということですからタイ政府も日本側出資が五〇％を超えることを認めたであろうと確信しております。せめて五〇％まで持つていけなかつたのかと残念でなりません。株式所有の世界では一％でも多い方が決定権を持つからであります。これに対処するため合弁契約や会社の定款では日本側の意向に反して決議することがで

きない様な決め方を致しましたが、これはタイの商法を詳細に検討しますと、こういう条文の作成が可能であったという次第です。会社運営上この一%が問題となる様な決定的場面に遭遇しなかったのは幸いでした。

今、振りかえってみますと、タイ側に五一%持たしたが為に主人公意識を持ち、一所懸命にやってくれたのも事実です。パートナーが比較的良好な華僑であったこと、業績が大変良かったことの為に問題が起らなかったのですが、一般論で申しますと日本側四九%の出資は大変好ましくない判断です。最近では日本側の力を背景にして一〇〇%或いはこれに近い比率での進出が数多く見られます。各々事情があつてそうなつていのでしょうか、他国で共同事業をする以上は共存共栄に徹することが大事であり、長期にわたつてその国に受容されることがポイントでありますから、相手国資本の活躍の舞台も用意して日本資本が七〇〜八〇%で事業を進めるのがよいのではないのでしょうか。

外国企業がタイに進出を希望する時は投資委員会に申請しますと、その進出がタイにとって好ましい場合は種々の恩典が与えられます。私共が頂きました恩典は法人税の六年間免除です。非上場会社の法人税率は三五%ですが、これが免税となります。又輸入機械にかゝる関税もゼロとなりました。又、輸出を致しますと品目によって種々ですが、当社製品の場合は約七%の奨励金をもらいました。これらの恩典は経営に大きいメリットを与えてくれました。製品の約半分は日

本に輸出しました。日本は品質について世界のどの国よりも格段にやかましいのですが、利益も又大きかったようです。工場の作業員はよく働いてくれましたが、一ヶ月に一人の割合で退職していくのには閉口しました。装置の運転要員は二十四、五人でしたからこの割合でやめられますと、二年で全部入れ替ってしまう計算になります。少しでも高い給料を出す会社がありますと直ちにかわってしまいます。とめる方法はありません。このことは大変になやみましたが、給料を上げたり、後の人のために作業マニュアルを整えておくより外に方法はないと納得するまで若干の時間を要しました。こうして一九八六年一月に操業を開始してから五年が過ぎましたが、初年度を除き毎年可成の利益をあげることができまして、この計画は成功致した次第でございます。

初年度の赤字は、合弁会社が「円」を日本の銀行から借りておりまして、急激な円高のため現地通貨バーツ建ての負債が倍位にふくれ上った為であります。その後は順調に収益をあげ続けておりますが、日本で毎年赤字でやんでいた事業がなぜタイで高収益事業に転じたのでしょうか。現地合弁会社、輸入を担当する商社、日本の親会社、別途設立された日本総販売店の各社が可成り大きい利益をあげ出資者たる親会社はすでに投下資本をほぼ回収しています。原料ヒマシ油が安く購入できたこと、円高メリットが享受できたこと、恩典が大きかったこと等いくつも要因は指摘できると思いますが、この本質は製品（ヒマシ硬化油及び一二ヒドロキシステアリン酸）が優秀であるにもかかわらず、これを日本側が理解していなかったので、予想外の発展に驚いたと

というのが真相です。ヒマシ油の成分は代替物のない特殊な構造を持ち、これから製造される前述の製品はアメリカ、ヨーロッパ、日本、ソ連の機械文明の発達した各国で使用されておりませんが、世界市場への供給者は実質的にブラジルの数社しかありませんでした。つまり供給不足の状態にあったのです。

この様な状況の所へすぐれた日本の技術で安く製造し、適切なユーザーをつかまえば売れる様になるのが自然です。日本の市場の中だけで物事を見、かつ小規模で操業して赤字であったので、この事業はよい仕事ではない、と私共は判断していたのでした。まことに不明の至りであります。タイで生産し、世界に販売し、需要に応じて大規模化して見てやつとこの事業は面白いということがわかりました。物事の本質を理解するためには広い視野を持ち或は視点を変えて見る事が大事であるのをやつと知ることができました。

さて、合弁会社の経営に当りましてはタイ人経営者と意見交換をしたり、討議をしたりの連続でございました。同じ東洋人ということもあり私の言うことをよく理解してくれましたが、大変理解に苦しむこともありました。タイ産ヒマシが不作で不足したので、中国から原料を輸入したことがあります。当時は天安門事件の後で経済活動も混乱しておりました。契約や輸送も約束通り実行されないという一般状況の中で、私共の注文も到着が大巾に遅れまして、この為製造も日本への輸出も遅れてしまいました。日本側から大変お叱りを受けたのは当然であります。納期お

くれ、ということで大変責任を感じたのですが、タイ人経営者の方は平然としておりました。中国に対する発注は正確に行った、品物が来ないのは中国の責任である、従って顧客に対する責任はないと言うのです。責任感の持ち方に国民性の差があるとしたか解釈できませんでした。

責任感については同様ケースが何回もありましたが、次のもその一例です。合弁会社は日本の銀行から「円」を借りておりましたので、一年に二回返済しなければなりません。第一回目の返済は銀行との打合せに従って送金したのですが、間に何行かが入っていました為に返済が半日おくれました。これも又日本の銀行から電話で叱られたり、債務不履行にすると言われたりしたことがございます。この時は、次回から少し余裕を見て送金する様依頼しましたが、経理担当のタイ経営者はその必要はないということです。欧米の銀行は若干入金がおくれてもクレームは来ないと言うのです。これも入金遅れの責任は銀行にあり、というわけです。外国人との共同事業は相互信頼が大前提となりますから、特に大切な経営上の責任問題についてこれ程の差があるのはかなわないと思いました。

この二つのケースでは仕事を続けるのがすっかり嫌になってしまいました。自分に責任はない、という考え方の人々と商売をするのはなかなか難しいことでもあります。タイ華僑にはよい所も多々あります。商売上の行きづまりは度々あることですが、こんな場合、彼等は双方にとって受け入れやすい妥協策を思い切りよく出してくれます。日本の様に誰々に相談の上というやり方は比

較的少い様です。又こちらが困っている時は助け舟も出してくれます。たゞこういうことが行われる前提としましては合理性のある資料を出して理解してもらうことが必要です。次に現地の合弁会社側から見ました日本側の対応についての話です。私共の生産規模は出発時三百トン（月産）でありましたが、世界各国からの引合いが予想を遙かに超えましたので、設備増強の必要に迫られました。合弁会社という独立の企業ですから自らの力でやっていける力を畜えねばならぬのは当然のことです。需要に対応するため三倍位に増設する案を作成して日本へ出かけて行きました。種々相談し了解を得ようとしたのですが、日本側は賛成してくれません。自分達の需要がまずく充たされていけばそれでよしというのです。海外基地はあくまで本社の調達手段であつてそれ以上は望まないというのです。そして増設を行った場合のマイナスの点ばかりを並べての反論でありました。

この議論は日本から見れば当然の話かも知れませんが、海外の生産拠点の展開の自由、責任を認めれば、そして、それが成功した時は大きい見返りが期待される、ということが一応理解されたのは半年後のことでした。この半年の機会損失は莫大なものでしたが、もっと早く説得できなかつたものかとの思いが残っております。この増設は大成功で合弁会社繁栄の基礎となりました。（その後一九九一年に第二次増設が行われ、世界有数の工場となりました。）この時はタイ側が世界市場を適確に洞察し、自信を以て日本側に迫つたのですが、日本側はうろろするばかりとい

った状況で、伸びしろうと意気盛なタイと、そんなにやらなくてもよいではないか、という日本との大きい落差に驚いたり寂しい気がしたものでした。なおこの時の資金は、合弁会社が直接日本の銀行にお願いして低利な資金を貸して頂きました。このため一九八八年度はとりわけ業績が良く、可成りのボーナスを頂きました。従業員にも三ヶ月分位を支給し喜んでくれた姿を忘れることができせん。

最後に毎日の暮しの中で感じましたことを申しあげて見たいと思います。

観光ポスターを見ますと、微笑の国のタイランドと書かれた下に美人のほ、えみが見られます。確かにタイ人は愛想が良く親身です。しかし女性は大変しつかりしがめついで、表面のほ、えみで中身を把握することはできません。周辺の国から攻められ、近代に至ってはイギリスやフランスと苦しい交渉をして国の独立を守って来ただけありまして、その外交手腕はなかなかのもです。通例日本人駐在者が一番よくつきあう人は女中と運転手で、この人達からタイ人をよく知ることができます。運転手との関係では金の貸借が思い出に残ります。「明日家族に食べさせる米がありません。少してよいかから貸して下さい。」という言葉は何回聞いたかわかりません。それも必ず銀行へ金を下しに行つた帰りの車の中で言うのです。彼等は日本人マネージャーの給料で二〇人も三〇人もタイ人を雇えることを知っていますから、自信を持って頼むのです。貸した金は一回五〇〇バーツです。(当時三千円位)米代にしては高すぎます。タイ人はキャン

ブル好きですからそのためか又は呑み代等に使う様ですが、私の運転手はクジを買うのに使った様に思います。又彼の場合は大変良く当るのです。私も時々買いましたが当ったことはありません。彼は借金一らん表を手帳につけており、常に私に見せて債務残高を私に確認さすのです。そして大体は返してくれましたが、二万円程はかえて来ませんでした。私が帰国する一ヶ月前に突然退職してしまつたからです。

このパターンは工場労働者に常に見られるもので、彼等は同僚から借金をして給料日に返すことになるのですが、給料を受取つた直後逃げ出す者がおりました。一度逃げてしまつと探し出すことはできません。運転手の言う借金理由である「米を買う金がない」というのはたまには本当であつたかも知れませんが大抵は嘘でした。彼に限らず日本人とは比べものにならない程嘘が多いのはがっかりしました。これは体面を重んずる、人前で恥をかくのを嫌がる、という国民性の表れであろうと思います。私は二人の女中さんに世話してもらいましたが、始めの人は若い娘で気立ての良い人でした。ところが或る連休に、クワイ川マーチで有名になりましたカンチャナブリという所へ一泊旅行をして帰りますと、その女中がテレビを盗まれました、と言うのです。警察で調べてもらった結果、ボーイフレンドと私の家で一泊し帰りがけに彼がテレビとラジオを盗んだことがわかりました。この件でもその女中は、本件には私に責任はない、と彼女の友人に語つたという話です。

警察も被害者が日本人の場合は犯人に甘い様で、命に別状なかっただけ幸いであつたと思ひました。その事件があつた後は怖くてホテルを泊り歩きました。一軒家に住んでおりまして大木と芝生に囲まれたよい環境でしたが、この時ばかりはアパートに住めばよかつたと悔んだものです。やむをえずその女中をクビにしまして次は四十才位のオバサンを雇いました。正直な人で何の事でも起りませんでした。この人は少しの給料から学費を出して娘さんを大学へやつていきました。かつての日本と同様、下層階級の人でも子弟にかかる夢は大きく苦勞して大学へ入れる傾向があります。

タイは學歷社会です。余裕のある家庭では、学科毎に家庭教師を雇つて母親が車を運転して先生の所をまわり歩く姿をよく見かけます。大変激しい受験戦争もあります。この女中さんは離婚して三人の子供を育て、おりましたが、こういうケースは大変多く夫の浮気が原因です。男性の九割は二号さんがいるという話も聞きました。女中さんの給料は二千から二千五百バーツで日本円で一万二千円から一万四千円でした。工場労働者は三千から三千五百バーツで日本円では一万六千円から一万九千円位でした。大学卒業の幹部は新卒で六・七千バーツ（四万円位）以上ですが、特に技術系と会計専門の卒業生は、供給が必要に追いつかず、大きい会社は高い給料を出るので移動がますます激しくなつております。タイの高度化のボトルネックは人材不足で、教育体系の改革により社会・産業の要請する多くの人材を一日も早く世に送り出さないと発展が中途半

端になってしまいます。通信・電話は雨季になるとすぐ故障してしまいます。

停電もあり発電所の増強も必要です。バンコク市内の交通網の新設——これはモノレールの導入——等いわゆるインフラストラクチャーを整備することが発展の必須要件です。私の住んでおりました家の家賃は二万一千バーツ（十一万円少々）で、これは日本人の平均より少し安かったのですが、一軒家の為、安全性にや、問題があったからです。私が帰国して次の人が入ると一度に四万二千バーツに上がりました。

しかし今（一九九〇年）ではこの家賃も高い方ではありません。日本人の数が増えるに従って家賃も女中さんの給料もスーパーの食品類も大巾に騰貴しました。日本人は金持だと見られているのです。事実、市内の最高級のコンドミニアムは四千万円、五千万円の高値でどん／＼日本人によって買われています。日本人に所有権が認められないのにも抱らず、です。立派なゴルフコースもほとんど造成されています。休日日本人ばかりがプレーし現地の人や欧米人は小さく買ってプレーしているかの如くです。多くの日本人によってメンバーシップが買われています。日本人の行く所すべてが買い占められる観を呈しているのですが、これではタイの人にとけこんでつき合ってもらおうという具合にはいかないのでしょうか。タイの社会は日本と違って束縛感・緊張感が少なく大変ゆるやかな社会規範の中で生活できますから、のびのびとした日を送ることができます。要するに自由に気まゝに暮せるのです。そういう環境に順応して、あまりこ

れを壊すことのない様に生活をしなければならぬと思う次第です。

日本人は集団指向が強いといわれますが、ゴルフも夕方の一杯もカラオケも皆一緒、奥様方も集れば大騒ぎ、というのが一般的風景です。個人で仕事もできるし遊びもできる、タイ人や欧米人とき合える、という様にならなければ欧米人並みにタイ人から尊敬されないのではないかと思います。このためには言葉の力も大事です。片言でないタイ語、英語を身につけて本音の会話ができるというのも大事なこと、思います。タイ人はどうも欧米人を尊敬している様な風が見えるのです。日本人に対しては親しみを感じている様に見えます。この差はどこから来るのでしょうか。高売上の仲間のレベルから人間として一目おかれる様になる為、一層努力していきたいものと存じます。まとまりのない話で申しわけございませんでしたが、これで終らせて頂きます。有難うございました。

(フリーデンコーポレーション社長)